

平成16年11月18日
(社)日本物流団体連合会

第2回電子タグ利用検討委員会を開催

(社)日本物流団体連合会(物流連)は、平成16年11月18日(木)午前第2回電子タグ利用検討委員会(座長:圓川隆夫 東京工業大学大学院教授)を開催いたしました。当委員会の主な内容は、下記のとおりです。

1.実証実験実施計画の報告

各トレードレーン(5レーン)における実験内容(別紙参照)について説明および検討を行った。

大連	東京
神戸	アントワープ
横浜	香港
名古屋	ロサンゼルス
香港	東京

2.UHF帯実験局免許の取得準備状況について

各拠点とも、11月末から12月中旬にかけて実験局免許を取得できる見込みである。免許取得次第、実験開始の予定である。

3.実証実験システムの概要について

全体のイメージ、システム概要について説明および検討を行った。

4.電子タグの適用可能性について

輸出入に関する適用の可能性、各業務での適用イメージ(ビジビリティの向上、 検品作業の効率化、 コンテナシールによる不正開封検知、 輸送貨物のモニタリング、 コンテナターミナルでのゲートイン・ゲートアウトの自動化・迅速化、 不審貨物のスクリーニング、 コンテナターミナルでの本船積卸時の情報伝達)および電子タグ・電子シール活用上の課題と解決の方向性についての説明・検討を行った。

(社)日本物流団体連合会(物流連)では、今後実証実験の内容をホームページ上で公開する予定であります。(現在は準備中)

物流連ホームページ www.transport.or.jp/jffi/

以上
担当 磯貝・慶谷
TEL 03-3593-0139

別紙

各トレードレーンにおける実験内容の一覧

国内港（スーパー中核）		京浜			伊勢湾	阪神
国内港（五大港） 利用バース	東京	東京	横浜	名古屋	神戸	
	大井 バース6/7	15号地木材埠頭	本牧 D-5	NCB R-1/2/3	ポートアイランド PC14/15	
相手港 利用バース	香港	大連	香港	ロサンゼルス	アントワープ	
	Modern Terminals No.1/2/5	大連インターナショナル コンテナサービス	HIT ターミナル7 バース10	ロングビーチ APLターミナル	—	
貨物	玩具	木材	トナーカートリッジ ドラムユニット	プラズマTV	化学品	
実施主体	バンダイロジバル、 三井物産	三協運輸	富士ゼロックス、 三菱重工、三井物産	ユニバーライゼーション、 三井物産、 三菱重工（検討中）	日触物流	
物流業者	船社	日本郵船	川崎汽船	商船三井	(商船三井/) APL	商船三井
	海貨、荷役等	バンダイロジバル	三協運輸/ 大連勝獅	富士フィルムロジスティクス/ 商船三井ロジスティクス	名港海運/ Sony Logistic America	井本商運/ 名港ヨーロッパ
輸出入		輸入	輸入	輸出	輸出	
フィード輸送					姫路→神戸	
貨物形態	FCL	○	○	○	○	
	LCL					
電子タグの 貼付対象	個品 (枚数)		○ (2.45GHz) 16/コンテナ	○ (UHF帯) 25~30/コンテナ		
	ケース/カートン (枚数)	○ (UHF帯) 600~700/コンテナ			○フレコン (UHF帯) 20/コンテナ	
	パレット (枚数)			○ (UHF帯) 40/コンテナ		
	コンテナ (枚数)	○ (UHF帯) 1/コンテナ	○ (2.45GHz) 1/コンテナ	○ (UHF帯) 1/コンテナ	○ (UHF帯) 1/コンテナ	○ (UHF帯) 1/コンテナ
電子シールの利用				Savi 433MHz	—検討中— Hi-G-Tex(433MHz微弱) またはAllSet(2.45GHz)	
読取 ポイント	国内倉庫	○	○	○(タグ、シール)	○	
	国内CT (ゲート)	○	○	○(シール)	○	
	国内CT (ガントリー)		○			
	海外CT (ガントリー)			○(シール)		
	海外CT (ゲート)	○	○	○(シール)	○	
	海外倉庫	○	○	○(タグ、シール)	○	
電子タグR/W設置数（予定）		4台	4台	2台	4台	3台
集中検証実施		○		○	(検討中)	
EPCシステムに準拠したシステムを利用						
概要		・倉庫における入出荷 検品の自動化・精緻化 等 ・コンテナにはカートン のバラ積み（パレット は積まない）のため、 コンテナとカートンに タグを貼付	・誤出荷防止、貨物の Visibility確保等 ・ハンディ端末を使った 読み取り	・貨物のVisibility確保 等 ・電子シール（433MHz 帯）を利用（コンテナ 開閉、温度・湿度等の センシング） ・センサロガーによる 温度、湿度、衝撃、照 度等のセンシング ・タグの誤読率、未読 率（特に一括読取時）	・コンテナと個品にタグ を貼付 ・特にEPCシステムの有 効性検証を重視	・貨物のトレース、誤 出荷防止、検品作業の 効率化 ・コンテナと個品にタ グを貼付 ・センサロガーによる 温度、湿度、衝撃、照 度等のセンシング
コンテナ数（予定）		2~4コンテナ程度 ×最大7週	最大5コンテナ×3週	1コンテナ×8週	1~2コンテナ×5週	3~5コンテナ ×2~3週
海上輸送期間（出航～着港）		3~4日	2~3日	3~4日	約10日	約30日